

第6章 新思考外交とソ連崩壊

UENO Toshihiko, e-mail: uenot@mc.newweb.ne.jp; URL: <http://www.geocities.jp/collegelife9354/index.html>

1. 「新思考 новое мышление」外交の始まり

- 1985年3月11日 ゴルバチョフ、ソ連共産党中央委員会書記長に就任
- 7月2日 グロムィコ外相解任（政治局員は1988.9.30まで）、後任にシェヴァルナツェ・グルジア共産党第1書記、就任
- 7月29日 8月6日から1986年1月1日までの核実験の一時的停止を宣言（その後さらに延長）
- 10月2-5日 ゴルバチョフ、訪仏。戦略核5割削減、中距離核戦力（INF: Intermediate-range nuclear forces）削減交渉を提案（3日）
- 11月19日 ジェネーヴでゴルバチョフ・レーガン（米ソ首脳）会談開始（6年半ぶり）
- 1986年4月28日 チェルノブイリ原子力発電所事故（原子力史上最悪）

2. 米ソ軍縮交渉の展開

- 1986年10月11-12日 レイキャビクでゴルバチョフ・レーガン（米ソ首脳）会談
 - 日 今後10年以内の弾道ミサイル全廃提案に、レーガン大統領が、いったんは賛成するも、他の西側諸国指導者との協議なしに西側の安全保障全体にかかわる提案に同意し得ずと、あわてて保留にする（当時、マスコミには「米国の戦略防衛構想（SDI: Strategic Defense Initiative）で物別れ」と説明された）→西側におけるレーガン大統領への信頼の低下
- 1987年3月28-30日 サッチャー英首相、訪ソ
 - 4月9日 ゴルバチョフ、チェコスロヴァキア訪問
 - 5月28日 西独19歳青年（ルスド君）、ヘルシンキからセスナ機で赤の広場に侵入着陸→ソコロフ国防相辞任し、後任にヤーツフ人事担当国防次官・前極東軍管区司令官が就任。
 - 7月11-14日 ゴルバチョフ、ポーランド訪問、欧州通常兵力削減で全欧首脳会議開催を提案、またブレジネフ・ドクトリン（制限主権論）見直しを提案→東欧自由化へ（1989年から）
 - 12月8-10日 ゴルバチョフ訪米。8日のワシントンのゴルバチョフ・レーガン（米ソ首脳）会談で中距離核戦力（INF）全廃条約調印（第2次世界大戦後初の軍縮条約）
- 1991年7月30-31日 モスクワで米ソ首脳（ゴルバチョフ・ブッシュ）会談。米、対ソ支援策発表（30日）、START条約調印（31日）

3. アジア太平洋政策の新展開

- 1986年7月28日 ゴルバチョフ、ウラジヴォストークで演説し、アジア太平洋政策を発表（ウラジヴォストーク宣言）→対中政策の変化（国境問題の改善）のほか、①アフガニスタンからの6個連隊撤退、②モンゴル駐留ソ連軍撤退検討、③全アジア安保会議の広島開催提案、④日ソ首脳相互訪問提案

- 1987年2月9日 中ソ国境交渉9年ぶりに再開（モスクワ）
 9月16日 ゴルバチョフ、クラスノヤルスクで演説し、アジア太平洋地域での安全保障を提案
 1988年5月 アフガニスタンからのソ連軍撤退開始。
 夏 ソウル・オリンピック以降、韓ソ国交樹立の動き。
 1989年5月15日 ゴルバチョフ訪中（ソ連指導者としては30年ぶり）、中ソ関係正常化
 6月4日 天安門事件→欧米による対中批判（人権問題）の結果、中国は国際的影響力を失う
 ↓
 ゴルバチョフの構想（中ソ関係好転によりアジアでのソ連の比重の増大）の挫折
 1990年6月4日 サンフランシスコでゴルバチョフ・盧泰愚（ノ・テウ）（韓ソ首脳）会談
 9月30日 韓ソ国交樹立
 1991年4月16-19日 ゴルバチョフ大統領、ソ連最高指導者として初来日し、日ソ首脳（ゴルバチョフ・海部）会談
 4月19-20日 ゴルバチョフ大統領、ソ連最高指導者として初訪韓し、済州島で韓ソ首脳（ゴルバチョフ・盧泰愚）会談
 5月15-17日 江沢民・中国共産党総書記訪ソ、中ソ首脳会談、東部国境線画定協定に正式調印（16日）

4. ゴルバチョフ「新思考」外交の動機

4.1. 「新思考」外交の展開により何らかの具体的利益（国益）があるという考え

- ①国内経済の困窮。
- ②国内での権力基盤固めのため、外交面で成果を上げる必要があった。
- ③既存の国際関係を大幅に変え、西側の結束を崩し、ソ連に都合のよい環境を創造するため。国際連合を重視し、資金のかかる第三世界からの撤退をすすめれば西側の主要国とならぶ地位につける。

4.2. 理想主義の追求（最高指導者となった以上、個人的にはもはやこれ以上得られる利益はない）

- ①階級的利益から全人類的利益への追求へ
- ②絶対平和主義

5. 東欧の変動（自由化の嵐の1989～90年）

- 1988年8月31日 ポーランドのワウエンサ「連帯」労組議長、キシチャク内相と会談、内相提案の円卓会議参加を決め、国内各地のスト中止を指令
 12月7日 ゴルバチョフ、国連総会で演説、自由と人権の擁護を強調→東欧諸国民による政府への反抗拡大
 1989年2月12日 ハンガリーで複数政党制承認
 3月23日 コソヴォでアルバニア系住民と警官隊が衝突
 4月6日 ポーランド、円卓会議閉幕、2院制を採用し、「連帯」の政権参加が承認される
 6月4日 ポーランド、上下両院選挙で、「連帯」が圧勝
 6月12日 ゴルバチョフ、西独訪問、「欧州共通の家」声明
 6月24日 ハンガリー社会主義労働者党議長に改革派就任

- 7月19日 ポーランド、初代大統領にヤルゼルスキ将軍を選出
- 8月19日 ポーランドで、非党員のマゾビエツキ首相就任
- 8月23日 在オーストリア（ウィーン）西独大使館に、東独→ハンガリー→オーストラリア経由で西独移住を希望して殺到する東独市民 8月始めからこの日までに 3300人
- 9月10日 ハンガリー政府、西独移住を希望してハンガリーに殺到する東独国民の出国を 11 日から認めるとの声明発表
- 10月1日 東独政府の出国許可を受けチェコスロヴァキア（プラハ）および在ポーランド（ワルシャワ）西独大使館に殺到していた計 6000 人の東独国民が列車で西独入り
- 10月6～9日 ハンガリー社会主義労働者党大会、党名を「社会党」に変更し、一党独裁放棄、市場経済移行を決定
- 10月9日 東独ライブチヒで民主化要求デモ
- 10月10日 ハンガリー政府、国内滞在中の東独国民の西独出国を許可
- 10月18日 東独社会主義統一党書記長で保守派のホネッカー辞任、後任にクレンツ政治局員就任
- 11月1日 クレンツ、モスクワを訪問。ゴルバチョフ・クレンツ会談、改革政策で一致
- 11月9日 東独政府、国民の出入国自由化、東ベルリン市民の西ベルリンへの出入りを自由化（ベルリンの壁、崩壊）
- 11月14日 チェコスロヴァキア出入国自由化
- 11月28日 コール西独首相、議会で東西ドイツ統一 10 項目提案
- 12月1日 ゴルバチョフ、1968 年のチェコスロヴァキア介入を誤りと認める
- 12月22日 ルーマニア、チェウシェスク政権崩壊、チェウシェスク大統領夫妻処刑（25 日）
- 1990年3月10日 ハンガリー駐留ソ連軍完全撤退協定調印
- 3月18日 東独自由選挙で早期統一派勝利
- 3月25日 ハンガリー自由選挙で社会党（旧支配党）惨敗
- 6月7日 チェコスロヴァキアで自由選挙、改革派圧勝
- 10月3日 東西ドイツ統一
- 12月9日 ポーランド大統領選挙、ワウエンサ「連帯」労組議長圧勝
- 12月11日 アルバニア労働党、一党独裁放棄、複数政党制導入を決定

6. ソ連崩壊への道

- ・ 民族問題の激化
- ・ 共和国の分離化傾向強まる
- ・ ソ連邦共産党の求心力低下
- ・ ゴルバチョフの軍縮・東欧政策・新連邦条約策定に保守派の不満高まる→シェワルナゼ辞任へ

↓

・ クーデター派の台頭（正確には保守派だけがゴルバチョフの周りに残る）

- 1989年3月26日 ソ連人民代議員選挙（初の複数候補選挙）
- 4月9日 グルジア共和国首都トビリシで独立要求デモ、警官隊と衝突
- 6月16日 カザフスタン共和国ノーヴィ・ウゼーニ市で民族暴動
- 7月10日 西シベリアのクズバス炭田でスト
- 8月8日 エストニア共和国最高会議、非エストニア系住民の選挙権を制限する選挙法採択

- 12月20日 リトアニア共産党大会、ソ連邦共産党からの分離独立を決定
- 1990年1月15日 アゼルバイジャン共和国ナゴルノカラバフ自治州とアルメニア共和国の一部に非常事態導入
- 1月20日 ソ連軍、アゼルバイジャン共和国首都バクーに侵攻。アゼルバイジャン共和国ナヒチェワン自治共和国最高会議、ソ連からの分離独立を決定
- 3月11日 リトワニア共和国最高会議、独立宣言採択
- 3月12日 ソ連人民代議員大会、複数政党制導入決定、ゴルバチョフを大統領に選出
- 3月30日 エストニア共和国最高会議、独立宣言採択
- 5月4日 ラトヴィア共和国最高会議、独立宣言採択
- 5月29日 エリツィン、ロシア共和国最高会議議長に選出
- 6月12日 ロシア共和国、共和国の憲法・法律が連邦の憲法・法律よりも優先されるとする内容を含む主権宣言を採択
- 7月2-14日 ソ連邦共産党第28回大会、議会政党への脱皮、中途半端に。ヤコブレフ、エリツィンら改革派は離党
- 11月14日 グルジア共和国最高会議議長に独立派のガムサフルジア就任
- 12月20日 シェワルナゼ外相、辞任
- 1991年1月13日 ビリニェス事件
ソ連軍がリトアニア共和国首都ビリニェス市民のデモ隊と衝突、放送局を攻撃・占拠、市民14人が死亡、140人以上が負傷
- 1月20日 リガ事件
ソ連内務省軍特殊部隊がラトヴィア共和国内務省を銃撃、共和国側死者5人、負傷者10人
- 2月18日 トビリシ事件
グルジア共和国首都トビリシ郊外のグルジア民族主義者の拠点をソ連軍が襲撃
- 7月17日 ロンドン・サミット、対ソ経済支援で合意
- 8月19-21日 モスクワで、ヤナーエフ副大統領・パヴロフ首相・クリュチコフ国家保安委員会議長・ヤーゾフ国防相・ブーゴ内相らによる反ゴルバチョフ・クーデター
- 9月6日 ソ連国家評議会（クーデター後のソ連最高機関、各連邦構成共和国首長により構成）、リトアニア、ラトヴィア、エストニアの独立承認
- 9月17日 第46回国連総会、北朝鮮、韓国、バルト3国などの国連加盟承認
- 9月25日 ガムサフルディア・グルジア大統領、非常事態宣言、内戦へ
- 10月5日 ソ連、IMF 準加盟
- 10月12日 バンコク・サミット（拡大G7=G7+ソ連）、対ソ支援具体策で合意
- 11月19-21日 モスクワで拡大G7D=先進7ヶ国+ソ連・共和国蔵相代理会議、10億ドルつなぎ融資を含む対ソ支援策で合意
- 12月8日 ベロヴェーシ（ベラルーシ）でロシア・ウクライナ・ベラルーシ3国首脳、CIS創設宣言（プレスト宣言・ミンスク宣言などと言われたがロシアではベロヴェーシ協定）
- 12月21日 アルマ・アタ（カザフスタン、現アルマトゥイ）で旧ソ連11ヶ国首脳、CIS創設宣言
バルト3国は不参加。グルジアは内戦終了後にCISに参加、旧ソ連13ヶ国となる
- 12月25日 ゴルバチョフ大統領辞任TV演説、ソ連邦消滅